

中学校 第3学年 総合的な学習の時間指導案

草津市立草津中学校
大野 詩央里

1. 単元名 草生タイム「ひとが交差する出会いの町草津」
～マルシェでクサツの魅力を発信しよう～

2. 単元の目標

- 地域の人材や地域資源を通して、地域の魅力に自ら気づくことができる。また、身につけた知識や課題をもとに、仲間と協力し、地域の魅力を発信するため、課題解決するための行動やイベントを、企画計画することができる。(知識及び技能)
- 身につけた知識をもとに自ら課題を見出し、地域の魅力を発信するための具体案を考えたり、実際に自分たちで考えたものを実践したりすることができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- 自分たちの住んでいる市の課題を見つけ解決方法を考える中で、主体的に自分たちの社会の未来を考え、社会に参画しようとするすることができる。また、学習する中で、他者との対話を通して多様な考えを取り入れて考え、企画をまとめることができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

2. 単元について

(1) 教材観

草津中学校がある草津市は滋賀県の南西部に位置し、県下第2位の人口を有する都市である。JR 草津駅が最寄りにあり、多くの人が行き交い集うにぎやかな市街地にある。また、江戸時代には東海道と中山道が交わる重要な地点であり、現在でも草津宿本陣など歴史的な建物が国の史跡に指定されている。サンヤレ祭りをはじめ地域のお祭りも多く、様々な歴史文化遺産が受け継がれてきた。また、商業施設や草津川跡地公園など多くの人が憩う場となっている。人々が交差する町草津市の魅力を企画、発信し、地域住民と地域資源の出会いの場を提供する場をこどもたちがつくる。そんな授業にしたい。

(2) 生徒観

本学年の生徒は、1年生の時から「草生タイム」の授業の中で草津市の観光について探究学習に取り組んできた。1年時は、身近な地域の魅力を「知る」ため、近隣の地域資源へ取材に出向きガイドブック制作を行った。2年時は、滋賀県内の観光名所4か所にフィールドワークに出かけたのち、地域の特色と課題解決に向けて「分析をする」統計グラフを制作し、ポスターセッションを行った。次に3年生では「発信する」がテーマであり、これまでの知識を生かし、どのように草津の魅力を発信していくかが重要である。しかし、本校のこの学年の生徒は自尊心が低く、コミュニケーションやプレゼンテーションを行うことが苦手な生徒が多い。地域の方々と交流することを通して、コミュニケーションスキルの向上を図り、自分たちの街を守っていく行動につなげることができると思う。また、できたという経験から自信をつけさせたい。

(3) 指導観

本単元の指導にあたり、つながりを重視した授業づくりを行った。各教科との横断的な学習、3年間の学びのつながり、地域社会、人とのつながり、生徒たちが継続して地域と関わる中で、地域と自分のつながりを持ち、自分たちの地域を持続的によりよくしたいと主体的に取り組む態度を身につけることを、目標にしている。

3. ESD との関連

本学習で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

- 相互性…地域の取り組みが未来を決定するということ。
- 有限性…身近な地域資源を大切にし、受け継いでいくということ。
- 連携性…誰もが草津市の未来の担い手であるということ。

本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

- 協働的問題解決力…自分たちが起点となり、様々な人たちと手を取り合って持続可能なよい街づくりに取り組む。
- 持続可能な発展に関する価値観…持続的に草津市で生活し、地域資源を残すことができる為に考えることができる。
- コミュニケーションを行う力…クラスメイトや地域住民、企業の方々と交流する。

本学習を通して変容を促す ESD の価値観

- 人権・文化を尊重する…「草津」に残る歴史、文化を尊重しながら、前向きに新しい文化を自分たちで創っていかうとする。
- 幸福感に敏感になる・幸福感を重視する…自分たちの手で、自分たちの町を変えていかうとし、人生が豊かになるように工夫する。

達成が期待される SDGs

- 目標11持続可能な都市・まちづくり…草津市の未来に向けて自分たちができることを考え、持続可能にするために地域を保全・活用する。

4. 単元の評価規準

ア 知識及び技能	イ 思考・判断・表現力等	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 地域の人材や地域資源を通して、地域の魅力に自ら気づくことができる。	① 課題を見出す中で、持続可能な街づくりのための方策を考えている。	① 持続可能な街づくりのための方策について、自分事として考え、意見をもって発信している。
② 学んだり、調べたりして獲得した知識をまとめ、発信する技術を身に付けている。	② 地域に向けて発信するための資料をまとめ、発信している。	② 多様な意見を取り入れ、自分の考えを再構築し、企画することができている。

5. 単元の指導計画 (全17時間)

	学習活動	学習への支援	評価・備考
2時間	○学習の見通しをもつ。 ・これまでの2年間の学びを踏まえ、どのような草津市の魅力を発信するか考える。 ・琵琶湖博物館、草津市水生植物公園みずの森、街道交流館の3か所の30周年に合わせ、コラボ商品開発(ワークショップの企画等でもよい)を行う。 ○現代的な課題や関連する事項を見つける。 ・課題解決に向けて仮説を立てる。	・自然、食品、文化、歴史、体験など大きな括りの中でどんな地域資源があるか書き出すように声掛け、支援する。 ・地域資源とのコラボで商品開発ができないかを話し合い、仮説を立てるように支援する。 ・地域資源のなかには観光地への移動手段が不便である。知名度が低い。など様々な課題がある。課題解決のためにはどのような対策が可能かも含めて企画するように支援する。	ア①
2時間	○課題について情報収集を行う。 ・知識を共有する。 ・これまでの経験やインターネット、対話から情報を集める。	・知識を共有する際は、グループごとに司会を決め、円滑に対話できるように声掛け、支援する。	ア②

4時間	<p>○販売したい商品をきめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・途中経過をグループごとに発表。 ・意見交換 ・仮説の検証、商品開発を行う。 ・どんな客層に向けて販売したいか考える。 ・他のグループの生徒や地域住民や企業の方々に意見を聞き、意見を参考にする。 	<p>・例題を基にアイデアを出す支援を行う。</p> <p>例) 草津市の土を使った草津ブランド作品の制作。琵琶湖の生き物の箸置きを制作する。琵琶湖博物館コラボ</p> <p>例) 本陣歴史タイムスリップ大名と姫になりきり体験を企画しよう！街道交流館コラボ</p> <p>例) 草津市の花あおばな和菓子を開発しよう！草津市水生植物公園みずの森コラボ</p>	<p>イ① イ② ウ①</p>
4時間	<p>○販売準備をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産品の仕入れ先と交渉する ・販売促進グッズの制作 ・ポップの制作 ・ポスターやチラシの制作 ・CMの制作 ・企業の方々からの助言を生かし、販売に向け準備を行う。 	<p>・昨年度のフィールドワーク先のお土産売り場や、近隣の売り場を参考に、販売を成功するための工夫を考えるように、声掛け、支援を行う。</p>	<p>イ②</p>
4時間	<p>○地域公園のマルシェで販売をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒への発信。保護者や関係者の招待。 	<p>・多くの人に伝わる話し方の工夫を声掛け。企業の方々に販売方法についての支援をいただく。</p>	<p>ウ① ウ②</p>
1時間	<p>○ワークシートへ成果と課題をまとめ、振り返る。</p>	<p>・達成感を感じさせたい。草津市をもっと好きになり、持続可能な街づくりにつながるようなまとめにしたい。</p>	<p>ウ②</p>